

起立性調整障害疑い患者を 鍼灸院から総合病院へ 紹介した事例

2023/03/13 DAPAカンファレンス

はじめに 起立性調整障害とは？

- ・「思春期の自律神経の不調で朝起きられなくなってしまう病気」
英語名称はOrthostatic Dysregulation (OD)
- ・ 好発年齢は小学生から中学生。男児より女児の発症が多い傾向。
- ・ いじめなど精神的な理由の不登校と間違えられやすい。

参考

[一般社団法人 日本小児心身医学会のホームページ](#)

岡山県教育委員会 対応マニュアル

https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/604493_5061359_misc.pdf

フクロウ型体質(フクロウ型症候群)とは？

- 1980年に山本巖が「東医雑録」で、人間を「ヒバリ型体質」(交感神経優位型)と「フクロウ型体質」(副交感神経優位型)に大別して、その特徴を記載している。→ **苓桂朮甘湯**(りょうけいじゅつかんとう)が有効？
- ヒバリ型体質は朝から元気で朝食も入り、1日中元気に頑張れる。夜の睡眠も問題ない一方、フクロウ型体質(以下、フクロウ型)は、朝から寝起きが悪く朝食も入らず、無理して食べると胃がつかえる。遅刻の常習者となり不登校になることもある。昼から徐々に元気になり夜はとても元気で、「明日は学校に行く」と張り切っても、翌朝にはダウンしている。倦怠感、めまい、立ちくらみ、物音に敏感で動悸がするなどの症状も認める。西洋医学的には不定愁訴症候群、適応障害、睡眠相後退症候群などと診断されることがある。

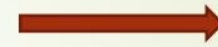
なぜ総合病院を紹介したか？

基本は鍼灸院→クリニック→医師の判断で総合病院だが
鍼灸院→総合病院への紹介はあり得る。
今回の紹介理由は「患者希望」であった。

大学病院や総合病院へかかりたい方は まずは「近隣クリニック」を紹介します。

- ▲ 大学病院を直接受診すると**選定療養費**がかかる。
- ▲ 画像データ等やり取りがうまくいかない事も。

- ◎ クリニックから大学病院は**選定療養費なし**。
- ◎ 画像データ等やり取りがうまくいく
- ◎ 鍼灸院に情報フィードバック



主訴・患者情報

「S (subjective) : 主観的情報」

10代男性(中学生)お母さんの紹介 別の整体院に行っていた。

主訴:

自律神経失調症(過敏性腸症候群)、朝起きられない(不登校気味)

医師の診断名:

起立性調整障害(疑い)、適応障害(疑い)→2022年1月S総合病院で脳MRI検査。異常なしも疑い診断名を告げられる。

通院状況:

S総合病院には現在はいっていない。現在は小児科クリニックに通院中。整体院へは1年通ったが通院中止。

既往歴

病気ではないが身長を伸ばすために小児科クリニックでリュープロレリン注射を行っている。

投薬:

ロラゼパム(ワイパックス)、メテノロン酢酸エステル(プリモボラン)、
五苓散、リュープロレリン(注射・リュープリン)、整腸剤

→

筋肉をつける・身長を伸ばす治療、不安や自律神経の調整を目的とした治療を行っている模様

★薬の影響や起立性調整障害(≠フクロウ症候群)を気にしていた。

「O (objective) : 客観的情報」「A (assessment) : 評価」「P (plan) : 計画(治療)」

身長 150センチ 体重45キロ

やせ型 過緊張 過敏性腸症候群もある。背部や頸部の緊張をとる方針で施術。

脛が固いため脛のストレッチを指導した。リラックスしてもらうよう努める。信頼関係構築のため積極的に情報提供を行う。

考察1、代替医療の過剰な効果を煽る情報

- 起立性調整障害の代替医療はほとんどエビデンスがない。
一般社団法人 日本小児心身医学会は「**整骨や整体、サプリメントなどには明確なエビデンスがない**」と注意喚起を行っています。
- 鍼灸治療に関しても改善したという**報告はあるが**エビデンスと呼べるほどの根拠はない。
→ このような疾患は**医師と協力しながら施術に当たることが理想？**

参考

起立性調節障害に対する鍼灸治療の1症例 佐藤美和、福島正也

考察2, 鍼灸師にできる事は？

- 施術・コミュニケーション・情報提供等

→ ガイドライン等で医師の診断方法や薬などの知識も学んでおく。

- よくコミュニケーションをとり不満に出るような点を先につぶしておく。

病院を選んだ理由: 医師の紹介、交通の便、専門性の高さなど

不満は待ち時間の長さなど

→ 患者さんが「初診料」についての疑問を持った。医師より「現在、漢方薬の流通が不足している旨」の説明があった

参考: 厚生労働省 令和2(2020)年受療行動調査(概数)の概況

期待値を上げすぎない。不確実性も説明。治療がうまくいかないとき
けいに失望する。

参考: Keeping Expectations in Check With Immune Checkpoint
Inhibitors →

https://ascopubs.org/doi/10.1200/JCO.2017.76.2146?url_ver=Z39.88-2003&rfr_id=ori:rid:crossref.org&rfr_dat=cr_pub%20%20pubmed

Hope for the best and prepare for the worst.

-最善を願って、最悪に備えなさい-

私たち鍼灸師もどのように患者を支えていくかが課題ではないか？